

北教だより

不祥事ゼロの学校改革を



学校を訪問させていただきますと、たくさん子どもたちの笑顔に出会います。特に、修学旅行のスナップ写真に写った子どもたちの満面の笑みはととも輝いていました。先生方が一人一人の児童生徒を大切に、温かく関わっていただいている賜物であると思います。これまでの各市教育委員会や現場の先生方のご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

さて、多くの方のご努力で学校に戻ってきた笑顔も、一部の教職員のちょっとした気の緩みにより、一瞬にして消え去ってしまいます。特に、これからの時期は、交通事故、体罰事故やわいせつ事案の発生が多い傾向にあります。令和4年6月28日付け義教第897号「夏季における学校管理及び教職員の事故防止について(通知)」等をご活用の上、学校事故の未然防止に向け、教職員一人一人に応じた適切な指導・支援の徹底をよろしく願いいたします。

コンプライアンス事故が発生しにくい学校には、人権意識に満ち溢れた温かさがあります。職員室にも教室にも愛があります。決して感情的になり、怒号が飛び交うことはありません。誰もが気持ちよく生活し、学校から笑顔を失わないためにも、管理職がリーダーシップを発揮し、温かさや同僚性のある職場環境を構築して、「事後対応」から「未然防止」に力点を置いた学校への改革をお願いします。

教職員の非違行為をもたらず認知バイアス（認知バイアス：思い込み）

【対応バイアス】

人の行動の原因をその人の中に勝手に作り出す。

例：新採教員が学級経営で苦勞しているのは、甘やかされて育ったからであり、厳しく指導しないと上手にならない。

【正常性バイアス】

都合の悪い情報を無視・過小評価する。

例：監査があるけれど自分が作った書類は細かく見られないから、数字をねつ造しても大丈夫。

【確証バイアス】

都合の良い情報を集めて先入観を補強する。

例：朝は飲酒検問をしないから酔っ払い運転は見つからない。

【内集団バイアス】

自分が所属する集団が他の集団より優れていると解釈する。

例：自分が顧問をしている部活は他の部活より成績が良いので、厳しい指導をしても許される。

分析結果に基づく対応策

- ①人は悪いこともすることを認める ⇒ (適合策) 風通しの良い職場づくりの充実
- ②人が持つ認知バイアスを知り自覚する ⇒ (適合策) 指導→協働型の校内研修
- ③学校はハラスメントが起きやすいことを自覚する
・わいせつを考える上で、教職員による児童生徒を対象とした恋愛は存在しない。
⇒ (適合策) 指導・助言型の校内研修、第三者による講演会や研修会の企画等
- ④児童生徒が教職員からハラスメントを受けていることを告白できる仕組みを作る
⇒ (適合策) ③を受けた対策: 早期に情報を得る組織づくり、工夫ある対応の仕方等

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために（算数・数学）

【単元を通して資質・能力を育てる】

子供の実態に即した
単元計画の作成が大切

- その単元で育成したい資質・能力の（三つの柱）の明確化
 - ・既習と、この後学習することを踏まえる。
- ゴールが何かを見据えて授業を実施
 - ・児童生徒は、どんなことができるようになっていけばよいか。
→ 単元末に実施する評価問題を踏まえて指導する。（指導と評価の一体化）
- その資質・能力を育成できたかを判断する評価問題の作成
 - ・資質・能力を育成できたかを判断する。

〈三つの柱〉
・知識及び技能
・思考力、判断力、表現力等
・学びに向かう力、人間性等

授業構想を考えよう！

子供が考えたくなるような工夫

- 問題場面
- 学習のねらい（その問題が解けることがねらいではない。）
 - クラスの子供の最初の解決の様子（解ける子供が多いか。あまりいないか。）
 - 適切な対話的な学びの選択
（どの考えをどの順で取り上げるのか。「あっそうか、分かった」と気付かせるのはいつか。）
- 学習のまとめ（ねらいに正対したまとめ）
- ねらいを達成したかどうか評価する問題（指導と評価の一体化）
- ねらいを達成した子供の解決の様子（解ければいいのか。式がかければいいのか。説明まで必要かを示す。）
 - クラスの子供が最後にもってほしい感想

学び合いで大切にしたいこと

- ・ 友達の話に対して、賛成、つけたしを示す。
- ・ 友達の話をうなずきながら聞く。（反応する）
- ・ 友達の考えをノートにまとめる。
- ・ 友達の考えを真似して説明する。
- ・ 友達の考えを自分の言葉で説明する。
- ・ 黒板の前に出て、図に書きたしながら説明する。
- ・ 長い説明のときは、区切って、「ここまでいいですか」と確認しながら説明する。
- ・ 友達の考えを使って、問題を解く。

適切な問い返しを入れる

- 〈例〉
- ・ 「ここまで分かった？」
 - ・ 「みんな同じ答えですか。」
 - ・ 「なぜこの答えなのですか。
理由を言ってください。」
 - ・ 「なぜその式なのですか。
図を基にして説明して。」
 - ・ 「ここは、どうしてですか。
この部分を説明して。」
 - ・ 「この説明、みんなできますか。」

子供の反応を見て問い返し、
みんなの気付きにつなげよう。

ICT の活用例

- ◎ 表やグラフの作成
- ◎ 図形の指導の充実

問題解決の流れ
の中では…

ICT を活用する場面を適切に選択！

- ・ 問題提示…一瞬で配付できる。問題を拡大して見せることができる。
- ・ 自力解決時…ノート・ワークシートの代わりに使用。
印刷の必要もなく、試行錯誤が可能。
個人の問題解決の状況を把握できる。
- ・ 学び合い時…一瞬で記述内容の転送が可能。
一覧表示が可能。
- ・ まとめ・振り返り…まとめ・振り返りの共有。
振り返りの記述の蓄積。